

東奥日報
2018年(平成30年)12月6日木曜日(15)

下北ジオオの魅力バスに

八工大生2人、ラッピングデザイン考案

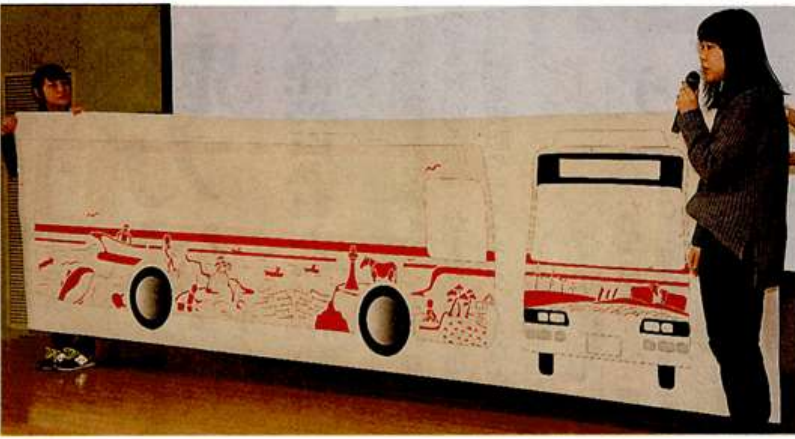
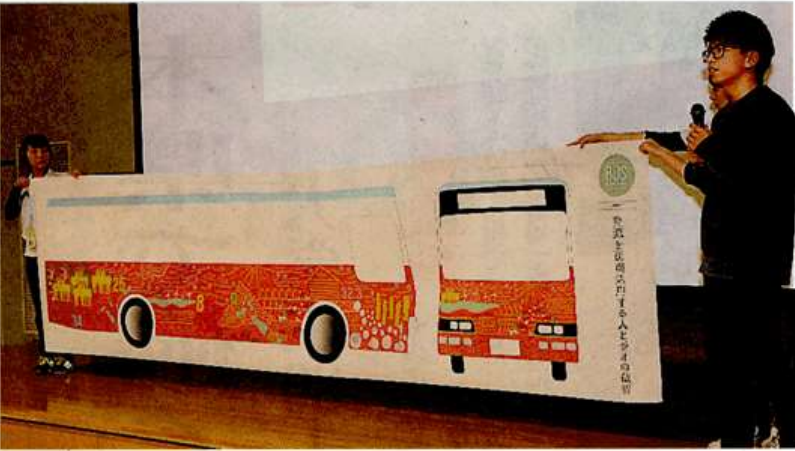
来春から運行 意見募る

む つ
八戸工業大学感性デザイン学部2人の学生が、下北ジオパークをPRするラッピングバスのデザインを考案し2日、むつ市のむつ来さまい館で発表した。ラッピングバスは下北交通(同市)が来春4月から運行する予定で、発表会の来場者の意見を基に、デザインを改良する。
(工藤洋平)

八工大2年の高橋祐賢さん(20)、高野亜子さん(20)がそれぞれ1案ずつ発表。2人は今年9月に東通村と風間浦村を訪れ、住民と交流しながら各ジオサイト(見どころ)について学習し、デザインに生かした。

高橋さんの案は赤が基調で、海や風、寒立馬、水産物など、ジオサイトの自然や風物をちりばめた。「厳しい自然を生き抜く地域のエネルギーに負けない色を使った。2度3度とバスを見て、下北ジオパークをより深く知ってほしい」と語った。

高野さんは、下北交通のバスに用いられている赤と白のラインを基に、農業や漁業など地域で暮らす人々の営みを表現した。「同じ下北でも、地域ごとに風景が移り変わっていく様子が印象的だった。あちこちのジオサイトに行ってみると、多くの人に思ってもらえたら」と話した。



ラッピングバスは昨年、むつ市の苦生小学校の児童が下北ジオパーク推進協議会に提案し、採用された。当時提案したメンバーの1人、宮古杏奈さん(田名部中学校1年)は「私たちのアイデアが、たくさんの方の協力で形になった。私もジオパークに関わっていると実感した」と感想を述べた。

【写真上】赤を基調に、ジオサイトの自然や風物をちりばめた高橋さん⑤のデザイン案【同下】農業や漁業など、ジオサイトと人との関わりを表現した高野さん⑥のデザイン案

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」